

友人を案内

2/14 に 2 人, 2/16 に 6 人の友がラナウにあるスラゴンホームステイに到着し, 私ども夫婦は, 約 2 週間彼らと行動を共にしました. 仲間たちの旅行の目的は避寒とゴルフです. できるだけ多くゴルフをして, 適度に観光を織り交ぜるということでした. サバ州を旅行するときに, 周遊しながら各地を訪れる案と何処かを拠点にして放射状に各地を訪れる案が考えられます. 今回は衆議一決してラナウを拠点にする案が採択されましたので, ラナウに滞在する時間が多くなりました.

ラナウにいるときには, 主としてラナウ レクリエーション ゴルフ クラブでゴルフをすることにしました. 早速, 各自, 当ゴルフクラブの 1 ヶ月有効グリーンフィー 50 リングを購入し, 世界で一番安いけど挑戦しがいのある難コースでゴルフを存分に楽しむことができる権利を得ました. 普段日本で電動カートを利用してプレイすることに慣れている人々にとって, 強い日差しの下でトローリーを引きながらプレイすることは結構な運動になるようでした. ここは 9 ホールのコースで, 谷越のホールが 5 ホールもあり, かなり神経を使います.

2/18 にスラゴンホームステイでパーティーを開催しました. 参加者は, 日本人 11 人, マレー人 5 人, シンガポール人, ドイツ人, ジンバブエ人各 1 人と国際色豊かなものになりました. 料理は, J さん, K さん, L さんおよび日本人女性 3 人が分担し, 日本, マレー, 西欧, 中国料理が食卓を飾りました. 当日から月末までに誕生日を迎える 4 人の参加者の誕生パーティーも兼ねました. ラナウにデリシャス (Delicious) というパン屋があり, ここは美味しいケーキも販売しています. 前日にオーダーすればケーキに文字を入れてくれますので, 大きなケーキに 4 人の名前を入れてもらいました.

2/20 に 8 人で 7:00 にスラゴンを出発し, クダットへ向かいました. 乗客が 7 人乗れる車 2 台を手配し, ゴルフバッグ 8 個を積み, 3 時間半のドライブでした. 料金は, 片道 450 リング/台でした. Kudat Golf & Marina Resort (Tel: 088-611211) に宿泊し, 朝食付きで 150 リング/部屋でした. クダット到着後, Kudat Golf Club で昼食をとり, 海側のコース 9 ホールをプレイしました. グリーンフィーは, 50 リングです. 2 人乗りの電動バギー代金が 30 リング/台, ゴルフ保険が 10 リング/人, その他諸経費が 5 リング/人でした. キャディーは電動バギー一台に一人付けることができ, キャディーフィーは 12.5 リングです. 夕日を見るためボルネオ島の最北端 Tip of Borneo へ行きました. 夕食は, RESTORAN HOCK CHEONG (Tel: 612166) でスチームボートを食べました. スチームボートとは, 日本の鍋料理に似ており, 海鮮や肉, 野菜, 中華そばなどを煮込みながらいただきます. ここのスチームボートは 20 リング/人程度で絶品です. 翌日は, 林間コース 9 ホールと海側コース 9 ホールを回り, グリーンフィーは 100 リング/人でした. Kudat Golf Club は, 19 世紀にイギリス人の手により作られた伝統的な 9 ホールの林間コースと 20 世紀に作られた斬新な海に入り組んだ 9 ホールからなります. プレイ後一路ラナウ (スラゴンホームステイ) へ戻りました.

2/22 にラナウ レクリエーション ゴルフ クラブの幹部各位と酒パーティーを開催しました. 私たちが日本酒を提供し, 彼らが BBQ を提供しました. このようなパーティーを催すのは今回で 3 回目です. ゴルフクラブの幹部と親交を深め, 理解を深めることは日本人長期滞在者にとって有意義なことであると思います. パトリック社長自ら魚, 鶏, ラムなどを焼いて, 振舞ってくれました. 最後はカ

ラオケでマムー氏(キャプテン)の美声を拝聴しました。

2/23 に 8 人で 7:00 にスラゴンを出発し、ケニンガウへ向かいました。乗客が 7 人乗れる車 2 台を手配し、ゴルフバッグ 8 個を積み、2 時間のドライブでした。料金は、片道 350 リンギ/台でした。途中タンブナンの TVRC によりリヒン(地酒)を購入しました。HOTEL PERKASA KENINGAU (Tel: 087 331045) に宿泊し、朝食なしで 150 リンギ/部屋でした。早速、Keningau Golf and Country Club (Tel: 087 331113) に向い、18 ホールをプレイしました。グリーンフィーは、42.4 リンギ、キャデューフィーは、20 リンギでした。このコースは、距離のある本格的コースで、フェアウェイの芝がきつく距離の出ない人にはとても難儀なコースです。数年前に訪れたときに比べるとコースにゴミが殆どなく気持ちよくプレイすることができました。夕食は、ケニンガウに 2 軒しかない空調完備のレストラン RESTAURANT GARDEN 33 (Tel: 087-336833) で中華料理を食べました。翌日もホテルが提供する送迎バスでゴルフ場に向かい、18 ホールをプレイし、ラナウ(スラゴンホームステイ)へ戻りました。

2/25、タクシーを一台 350 リンギでチャーターしてラナウ周辺の観光地を巡りました。キナバル公園でキナバル登山の開始点、資料館、植物園を訪れました。次にサバ ティー ガーデンに行き、工場見学をして、ロングハウスを見物しました。ロングハウスとは、先住民が住んでいた家であり、高床式で、竹で作られています。次に、ポーリング温泉を訪れ、温泉入口の斜め前にある Round Inn (Tel: 0198020898) で昼食としてランチセット(15 リンギ)を食べました。なかなか人気のある店で大勢の人が列をなしていました。鳥の目線でジャングルを見るために林冠(樹木の頂)に設けられた道を歩くことを canopy walk と言います。ポーリング温泉には小規模なものがあり、これを体験しました。ラナウに帰る途中で運よく開花して 2 日後のラフレスシアを見ることができました。

2/26、家内の誕生会と友人たちのお別れ会を兼ねたパーティーをスラゴンホームステイの二人の息子たちが主催して開いてくれました。夕食の時間まで誰も知らされていなかったので全くのサプライズでした。シンガポールやジンバブエから来ている長期滞在者も参加して心和むパーティーになりました。

2/27、スラゴンホームステイをチェックアウトした友人たちと 8:00 に車 2 台でコタキナバルへ向かいました。費用は 120 リンギ/台でした。コタキナバルでは、PROMENADE (Tel: 088 265555) に泊まりました。料金は朝食付きで 261 リンギ/部屋でした。ここの朝食バイキングは、いろいろな国の料理が取り揃えて有り、圧巻です。Klias river Safari に参加したいという要望が強かったので午後のツアー(190 リンギ/人)を申し込みました。このツアーは、コタキナバルから車で 2 時間くらい離れた Klias 川に行き、リバークルーズをしながら天狗猿と蛍を見物し、マレー料理を楽しむというものです。残念ながら悪天候になり、土砂降りの中でのリバークルージングになり、天狗猿を数匹見ることができましたが、蛍は諦めて、予定を早めてホテルへ引き返しました。

2/28、コタキナバルの市街地を散策しながら、ショッピングをしました。フィリピンマーケットやセントラルマーケットなどでおみやげを購入し、ガヤストリートの KENG WAN HING という中華レストランで昼食に肉饅を食べました。ここのビッグパオは、安いけど肉や卵がたっぷり詰まっており、これ一つで満腹します。Jesselton Hotel の斜め前で、バクテーで有名な祐紀肉骨茶と並んでいます。昼

食後、Suria Sabah という新しくできた大きなモールに行きました。夕食は、セドコスクエアの海鮮屋台で ソフトシェルクラブやスチームドフィッシュをいただきました。ソフトシェルクラブとは、脱皮した直後の甲羅の柔らかい蟹であり、から揚げにしてまるごといただきます。

2/29、午前中センターポイントの中を散策し、マレー料理が美味しいレストラン SRI MERAKA で昼食をとり、小休止をして空港に向かい、黒く日焼けして元気に帰国する仲間たちを見送りました。

この 2 週間は、雨期の終わりの時期であったにもかかわらず比較的好天に恵まれました。ゴルフはラナウで 5 回、クダットで 2 回、ケニンガウで 2 回の合計 9 回プレイしました。ラナウは高原ゆえ快晴でも日陰は涼しく感じますが、クダットやケニンガウでの日中のプレイはシニア世代には多少きつかったかもしれません。観光としてボルネオ島の最北端 Tip of Borneo で夕日を観賞したしたこと、キナバル国立公園を散策したこと、Klias River Safari を体験したことなどです。2 週間で多少欲張りな旅程だったかもしれません。今年のラナウは、実にローカルフルーツが豊富でした。ドリアン、マンゴスチン、マンゴ、パパイヤ、チャンパタ、ランブータン、ランサー、ブアノアなどなどです。初めて食べたものが多くあったのではないかと思います。マレー料理や中華料理の美味しい食べ物にも出会いました。また、タパイ、リヒン、モントクなどのサバ州の地酒を大いに飲み気炎を上げていました。概算ですが、日本との往復の航空運賃を含めて総費用(宿泊費、食費、ゴルフ代金、観光費用、現地交通費、おみやげ代)が 20 万円/人以内で収まっただろうと推察します。

私たち夫婦が大好きなサバ州を仲間たちも気に入り再訪したいという気持ちになってくれれば 2 週間かけて案内した甲斐があったことになりませんが、如何だったのでしょうか？また、ラナウでの私たちのスローライフの一端を覗いていただいたものと思っています。なぜラナウでスローライフを楽しんでいるのか？それは、気候が温暖で、豊かな自然と人情に溢れており、物価が安く、治安が良く、衛生面は必ずしも良いとは言えませんが容認できる程度だからです。慌しかったけど変化に富んだ日々が過ぎ、仲間たちが帰国して、私たちの生活は「ラナウでの平凡な日々」に戻りました。

参考文献；

私のホームページ(<http://www6.ocn.ne.jp/~khc>)の「旅行記」や「ラナウでの生活」の章の

項番 14. サバ州を周遊する案

項番 16. ラナウでの平凡な日々

項番 18. サバ州の地酒